

### 第3回都道府県審判指導員研修会〈北信越地区〉に参加して

新潟県高野連審判部スーパーバイザー 笠輪 充  
新潟県高野連審判部インストラクター 柳鳥 和久

このたび、第3回都道府県審判指導員研修会（隔年開催）に参加させていただきました。関係各位に心からお礼申し上げます。

事務局の計らいにより、富山アルペンスタジアムというすばらしい会場を確保していただきましたが、あいにくの荒天のため室内練習場での開催を余儀なくされました。終了時間も他団体の予約の都合上、急きょ13時までに繰り上げ、メニューを凝縮して行われました。

今回の講習会の目的は、平成27年からスタートしたライセンス制について、平成30年度から認定講習（昇級試験）が開始されることから、その講習の実施方法や判定ポイントを学ぶというものであります。インストラクターが模範実技、スーパーバイザーが判定のポイントを習得するという役割分担で行われました。

本研修会の名目上、実技はできて当たり前というプレッシャーの中、緊張感を持って受講させていただきました。

以下、講習会の概要及び指導における特記事項を報告いたします。

- ◆日 時 平成29年11月18日（土） 10時～13時30分
- ◆会 場 富山市民球場アルペンスタジアム（富山市下飯野 30-1）
- ◆講 師 全日本野球協会インストラクター 小山 克仁氏、村松 忠氏
- ◆受講者 北信越5県のスーパーバイザー 22人  
〃 インストラクター他 17人
- ◆協力チーム 富山国際大学、高岡法科大学
- ◆研修カリキュラム
  - 1 開講式
  - 2 Go-Stop-Call
  - 3 投球判定
  - 4 一塁フォースプレイ
  - 5 二塁盗塁
  - 6 三塁盗塁
  - 7 三塁ゴロの打球判定、ランダウンプレイ
  - 8 外野飛球の判定
  - 9 2人制メカニクス
  - 10 本塁のタッグプレイ
  - 11 キャンプゲーム
  - 12 ライセンス制度の各級付与について（座学）
  - 13 閉講式、任命書交付

## ◆研修内容に関する特記事項（抜粋）

### 投球判定

- ・ 捕手に近すぎる者が多い。ヒールトゥヒールトゥを意識するように
- ・ 評価時は、斜め前方からだけでなく真横に移動するなど角度を変えて見るのが大切
- ・ 右打者5球（外角3球→内角2球）、左打者5球（〃）計10球で評価

### 一塁フォースプレイ

- ・ 4人一組で1回ずつ順番で
- ・ 1回目…三塁ゴロ→二塁ゴロ（二塁ベース寄り）→走者一塁ダブルプレイ  
2回目…ショートゴロ→二塁ゴロ（1・2塁間）→走者一塁ダブルプレイ
- ・ 二塁ゴロの時は、まずリードステップ
- ・ 適切なタイミングで目を離し、セットポジションでプレイを待ち受ける。

### 二塁盗塁

- ・ 4人一組で1回ずつ順番に判定し、計2回判定
- ・ 適切なタイミングでボールから目を離し、ベースに正対しながらセットポジションをとり、ベースに焦点を合わせてプレイを待つ。
- ・ 2歩の場合、1歩目の右足の踏み出しは、引くのではなく、なるべくセンターラインに入るために右足を横にステップして向きを変える。（小山氏）

### 三塁盗塁

- ・ ラインに沿ってファール地域をまっすぐ前へ2～3歩出る。決して極端にラインから離れない。（ブラインドになることがあるため）

### 三塁ゴロ打球判定、ランダウン

- ・ 2班に分け、球審と3BUに配置
- ・ 0アウト、走者三塁、三塁ゴロ、打球判定後にランダウン
- ・ ベース付近はBU（前 mtg で確認）が判定
- ・ 球審は素早く三塁・本塁の延長線上に移動し、ラインの確保
- ・ ランダウンが始まったら、適切なポジション（4分の1）に移動し、走者の行動に合わせて行ったり来たりしない。
- ・ タッグしようとしたら踏み込み、タッグポイントを確認する。
- ・ 「オンザタッグ」「ノータッグ」「ラインアウト」などプレイに応じたジェスチャーやコールを適切なタイミングで行う。

### 本塁タッグプレイ

- ・ 0アウト走者三塁。三塁ゴロ。4人一組で1人ずつ順番に判定
- ・ スターティングポジションから真後ろに下がらない。
- ・ プレイを読み、適切なポジションに（三塁・本塁の延長線の右側）素早く移動
- ・ 一塁ゴロの場合は、一塁・本塁の延長線上まで行かず、左に一步踏み出し体を左に傾けのぞき込むようにして打球判定。その後、判定ポジションに移動